

年 譜

——大正・昭和の東京音楽学校
(大正元年～昭和二十七年三月) ——

○東京音楽学校は昭和二十四年五月三十一日をもって東京美術学校とともに新制大学に昇格、東京芸術大学音楽学部となった。しかし同校は、昭和二十三年に入学した最後の生徒が四年間のカリキュラムを終えて二十七年三月に卒業するまで音楽学部とともに存続する。したがって年譜は昭和二十七年三月までを扱う。

○年譜は主要事項の記載にとどめる。規則改正などの詳細は該当項目参照。

○校長以外の教官の任免については巻末の「一覧表」と「年表」参照。

○「」内は『東京音楽学校一覽』の記載による。

大正元年(一九一二)

七月 湯原元一校長帰国。

八月 能楽囃子生徒養成規程を制定し、九月一日より生徒募集。生徒養成を能楽会に委託。

同二年(一九一三)

十二月 邦楽に関する古書楽器等展示。

同三年(一九一四)

十一月 能楽図書展覧会開催。

同四年(一九一五)

十月二十一日 「天皇陛下ノ御眞影ヲ下賜アラセラル」

「皇后陛下 皇太子殿下ノ御眞影ヲ下賜アラセラル」

十二月 御大礼奉祝音楽演奏会開催。

同五年(一九一六)

十一月 雅楽および声明図書ならび楽器類の展覧会開催。

〃 皇后陛下行啓。

同六年(一九一七)

六月 湯原元一東京女子高等師範学校長に任ぜられ、文部省督学官茨木清次郎東京音楽学校長就任。

八月 生徒奨励金給与規程制定。

同七年(一九一八)

二月 グノー生誕百年記念演奏会。

三月 甲種師範科の卒業者で国語の成績優秀者に国語の中等教員免許状を授与することが定まる。

五月 ベートーヴェン 交響曲第五番《運命》日本初演。

九月 茨木清次郎東京外国語学校長に任ぜられ、東京外国語学校長村上直次郎東京音楽学校長就任。

同八年(一九一九)

六月 ベートーヴェン 交響曲第六番《田園》日本初演。

九月 予科の入学試験程度および甲種師範科の入学試験科目を改正。

同九年(一九二〇)

一月 初の管弦楽地方出張演奏。

十二月 ベートーヴェン生誕一五〇年記念演奏会。

同十年(一九二一)

五月 本校敷地内に新築の木造二階建て三十五坪、渡り廊下三坪半を交付される。

〃 チャイコフスキー 交響曲第六番《悲愴》日本初演。

同十一年(一九二二)

四月 校内に第四臨時教員養成所を設置される。

四月 本校敷地七千七百五坪六合五勺のうち三千二百八十坪を帝国図書館の敷地に移管する。

同十二年(一九二二)

五月 久邇宮朝融王殿下よりグワルネリ作のチェロ一挺下賜される。

九月 大震災のため分教場焼失、東京聾啞学校校舎の一部を借り受けて

十一月一日より授業再開。本校各科の授業は十月十四日まで臨時休止。

同十三年(一九二四)

三月 分教場仮建物二百坪を元敷地に交付される。

九月 本校敷地内の寄宿舎建坪百七十三坪五合を購入。

十月 分教場敷地に新築の物置および附属廊下六坪一合五勺を交付される。

十一月 ベートーヴェン 交響曲第九番《合唱付》初演。

同十四年(一九二五)

四月 初めて陸軍現役将校配属。

〃 本校敷地に新築の汽鐘室二十八坪を交付される。

同十五年(一九二六)

四月 学則中の改正により、研究科・本科・予科・乙種師範科に入学を許すべき女子は夫なき者に限ることとする。

昭和二年(一九二七)

二月 乙種師範科生徒募集を中止。

九月 「東京市立一橋小学校拡張ノタメ東京市ト交換セル敷地ニ分教場校舎建築中 分教場ヲ神田區錦町三丁目十四番地ニ移轉ス」

同三年(一九二八)

一月 乙種師範科生徒募集を当分中止。

四月 校長村上直次郎台北帝国大学教授に任せられ、松江高等学校長兼

杉嘉壽東京音楽学校長に就任。

九月 侯爵徳川頼貞氏よりパイプオルガン(イギリス・アボット社製)を寄贈される。

十月 「天皇陛下 皇后陛下ノ御眞影ヲ御貸下アラセラル」

十月 神田区駿河台鈴木町十五番地(昭和二十九年四月)平成七年三月附属音楽高等学校)に分教場校舎落成しこれを交付される。敷地七百四十八坪弱鉄筋コンクリート二階建ておよび木造平屋建て百二十六坪余り。

十二月 皇族便所三坪七合五勺を新設。

〃 御大礼奉祝演奏会を開催。

〃 皇后陛下行啓、御大礼奉祝演奏会を御鑑賞。

〃 本校の音楽演奏を初めてラジオ放送。

同四年(一九二九)

四月 選科学科目中に長唄を加える。

六月 本校寮友会より寄宿舎の休養室および附属建物十五坪八合三勺の

寄付。

七月 分教場落成披露演奏会を分教場において開催し、初めて生徒の長唄演奏を公開する。

〃 従来校内においてのみ開催した演奏会を初めて校外(日本青年館)において公開。以後定期演奏会を日比谷公会堂で行う。

九月 日本教育音楽協会および同声会より小山作之助の胸像の寄付を受け分教場前庭に建設。

十一月 本校創立五十周年記念式および各種記念事業。日比谷公会堂で

ヘンデル作曲《ユダス・マカベウス》記念演奏。

十二月 管弦楽部規程を制定。

同五年(一九三〇)

一月 予科と本科器楽部の器楽にダブルベース、フルートその他の管楽器を加える。

二月 蓄音器レコードの吹き込みと発行(ヘンデル作曲オラトリオ《ユダス・マカベウス》より)。

四月 選科学科目中、従来の山田流箏曲に生田流箏曲を加える。

六月 皇太后陛下行啓、洋楽と邦楽の演奏会を御鑑賞。

七月 同声会より創立五十周年として寄付された初代校長伊澤修二の胸

像を前庭に建設、除幕式を挙行。

九月 女生徒に洋服着用を許可。

〃 外国人教師を四人に増員(うち傭教師三人)。

十一月 選科学科目に新たに能楽(科目は謡 男生徒のみ募集)を加え

昭和六年一月より施行。

〃 分教場に長唄教室および渡り廊下木造平屋建三十坪二合を新

営。

十二月 本年より毎年一回選科生徒演奏会を開催することとする。

同六年(一九三一)

二月 「曩ニ御貸下相成リタル 天皇陛下 皇后陛下ノ御眞影ヲ奉還シ

新ニ之ヲ下賜アラセラル」

〃 定期演奏会が毎年三回となる。

〃 本校創立五十周年記念として同声会より奨学資金一万円のうち六

千円の寄付を受ける。

三月 能楽会より分教場に能楽教室木造二階建四十六坪五合の寄付を受

ける。

四月 男生徒の制服を改定。

〃 本科に作曲部を加える。

〃 予科に管楽器専攻志望生の入学を許可。

〃 外国人教師を五人に増員(うち傭教師四人)。

五月 初めて能楽演奏会。

〃 同声会より奨学資金一万円の残高四千円の寄付を受ける。

〃 福島琢郎氏より記念奨学資金寄付。

七月 能楽会より分教場能楽教室の渡り廊下十坪の寄付を受ける。

〃 幸田延氏より記念奨学資金寄付。

八月 乗杉嘉壽校長欧米各国出張を命ぜられる。十二月帰朝。

十一月 邦楽演奏会を毎年一回とする。

同七年(一九三二)

一月 選科学科目中に作曲を加えることとなり四月より施行される。

二月 定期演奏会が毎年四回となる。

〃 マーラー 交響曲第五番初演。

〃 市島徳厚氏より毎年奨学金が贈与されることとなる。

三月 第四臨時教員養成所廃止。

四月 奨学資金により初めて生徒に奨学金支給。

七月 生徒管弦楽団の地方公演。

〃 クルト・ヴァイルの学校歌劇《ヤーザーゲル》初試演。

同八年(一九三三)

二月 選科学科目中能楽にこれまでの謡に仕舞、囃子を加える。

三月 選科学科目に管楽を加える。

四月 木造平屋建教室十八坪を復旧。

〃 本年度において校舎全部に大修繕を加える。

五月 研究科生徒および聴講生にも管弦楽台奏または合唱を課す。

〃 物置一棟木造平屋建四坪五合八勺および分教場倉庫木造平屋建五

坪三合三勺を新営し、木造教室一階部五坪三合三勺、二階部二十九坪

三合三勺を増改築。

六月 校内に上野児童音楽学園を設置、同学園において本校生徒の教育

実習を行うこととする。

〃 木造平屋建教室および練習室十九坪八合を新営。

九月 本校内に上野児童合唱団の設置を許可。

十月 ブルックナー 交響曲第七番初演。

十二月 雨潤会より大正八年以降本校管弦楽奨励のため同部員に贈与さ

れた合計額が一万五千円となる。

〃 上眞行氏より奨学金追加寄付。

同九年(一九三四)

一月 甲種師範科の随意科目に管楽が加わる。

二月 選科規程中、能楽の囃子を太鼓と小鼓、箏曲を箏と三絃とする。

〃 長橋ヤエコ氏より長橋熊次郎奨学金の寄付。

〃 マーラー 交響曲第六番初演。

- 三月 正門前道路五百五十七坪五合に簡易舗装。
 - 〃 皇太子殿下御誕生奉祝演奏会を開催。
 - 四月 学友会より寄宿舎用木造平屋建二棟二十一坪の寄付を受ける。
 - 〃 皇后陛下行啓、邦楽と洋楽の演奏会御鑑賞。照宮成子内親王殿下
台臨。
 - 五月 生徒教練実施のため初めて野営演習を行う。
 - 七月 木造平屋建教室十坪増築。
 - 八月 分教場に木造平屋建教室一棟二十坪新築。
 - 九月 木造教室二階部九坪を増築。
 - 〃 初めて北海道に出張演奏。
 - 十月 校長乗杉嘉壽満州国および中華民国に出張を命じられ同月帰朝。
初めて本校の演奏をドイツに放送。
 - 十一月 上野児童音楽学園第一回演奏会。照宮成子内親王殿下台臨。
 - 十二月 初めてイギリスに本校より演奏を放送。
 - 〃 ヴェルディ《レクイエム》初演。
- 同十年（一九三五）
- 一月 初めて邦楽の出張演奏。
 - 二月 マーラー 交響曲第三番初演。
 - 〃 児童音楽学園児童を初めて本校演奏会に参加させる。
 - 四月 生徒吹奏楽団新設。
 - 〃 同声会より事務室木造平屋建二坪の増築寄付。
 - 〃 本校にて日暹両国交歓演奏。
 - 五月 初めて生徒吹奏楽団の出張演奏。
 - 九月 便所を浄化式に改修。
 - 〃 初めて生徒吹奏楽団の合宿練習。
 - 十月 九州地方へ初の演奏旅行。
 - 〃 学友会より生徒食堂平屋建十坪二合五勺寄付。
 - 〃 上野児童音楽学園より教室木造二階二十九坪二合五勺、渡り廊下
二階二坪七合五勺の増築および物置木造平屋建七坪五合の寄付。

- 十一月 池内泷氏より池内信嘉記念奨学資金の寄付。
 - 十二月 備外国人教師官舎敷地として、東京市牛込区市ヶ谷加町一丁目
十四番地ノ五所在土地七十五坪を大蔵省より有償管理換を受ける。
- 同十一年（一九三六）
- 一月 学友会より練習室木造平屋建一坪二合五勺の増築寄付。
 - 二月 ブルックナー 交響曲第九番初演。
 - 三月 初めて本科作曲部卒業生、本科器楽部管楽器専修の卒業者を
出す。
 - 四月 上野児童音楽学園に高等科新設。初めて卒業演奏会を開催。
奏楽堂および分教場建設敷地として、東京市本郷区湯島三丁目二
十四番地所在土地千九百六十坪を東京女子高等師範学校より管理換
受ける。
 - 〃 東京市牛込区市ヶ谷加賀町十四番地に備外国人教師官舎として木
造二階建（一部平屋建）一棟延四十坪を新築交付される。
 - 〃 社団法人能楽会に委託していた能楽離子生徒養成方を解除し、昭
和十一年度より本校において直接これを養成することに改める。
 - 五月 上野児童音楽学園より事務室二坪を増築寄付される。
 - 〃 分教場教室として木造二階二十坪増築。
 - 〃 W・ケンプ来日。奏楽堂で演奏。
 - 六月 邦楽科設置。
 - 〃 初めて上野児童音楽学園の対独放送（オリンピック応援歌）を行
う。
 - 〃 大阪市出張演奏会に久邇宮徳彦王恭仁子女王両殿下台臨。出張演
奏会に初めて皇族の台臨。
 - 七月 生徒教練実施につき野営演習期間を三泊四日間に延長する。
 - 〃 寄宿舎改築のため木造平屋建十八坪七五勺を取り壊す。
 - 九月 生徒吹奏楽団とともに初めて生徒管弦楽団の合宿練習を行う。
 - 〃 初めて管楽担当の外国人教師を置く（W・シュレーター ホルン
昭和十二年十一月まで）。

九月 上野児童音楽学園より教室木造平屋建一棟十三坪七合五勺および教室三坪を増築寄付される。

十月 邦楽科新設後初めて同科の地方出張演奏を行う。

十二月 音声研究部規程および細則を制定してこれを施行。

同十二年(一九三七)

一月 初めて対米放送。

二月 マーラー 交響曲第七番初演。

〃 本校学生歌を制定。

〃 邦楽調査掛規程を改正。

三月 本校敷地内に寄宿舎木造二階建一棟延九十二坪および渡り廊下二坪の改築交付を受ける。

〃 上野児童音楽学園より寄宿舎給水装置一式の寄付を受ける。

〃 東京市牛込区市ヶ谷加賀町一丁目十四番地所在傭外国人教師官舎二階四坪五合八勺三才を増築。

〃 井口謙三氏より井口ハル記念奨学資金の寄付。

四月 選科能楽は従来の観世流に寶生流を加え、長唄は唄および三味線のほか新たに囃子を加える。

〃 上野児童音楽学園より教室および練習室木造二階建延五十坪の増築寄付。

六月 プリンクスハイム送別演奏会。バッハ《マタイ受難曲》初演。

八月 寄宿舎改築のため木造二階建一棟八十七坪、木造平屋建二坪二合五勺、便所木造平屋建六坪、渡り廊下木造平屋建五合を取り壊す。

九月 新たに防空規程を制定する。

〃 上野児童音楽学園より教室および練習室木造二階建坪三十二坪三合三勺二才の増築寄付。

十一月 上野児童音楽学園ならびに本校学友会より寄宿舎二階建延二十一坪増築寄付。

〃 防共協定成立記念日独伊親善演奏会に出演。

〃 本校敷地内に寄宿舎木造二階建延七十三坪五合、便所平屋建八

坪、渡り廊下木造平屋建二坪五合改築仮交付を受ける。

十一月 新たに陳列室を設置し参考楽器および標本類を陳列展覽。

同十三年(一九三八)

二月 校旗を改定。

〃 傷病軍人慰問演奏および出征軍人家族慰問演奏会を開催。

三月 学友会より生徒食堂木造平屋建二十三坪八合三勺三才および雨天体操場十五坪の寄付。

〃 侯爵徳川頼貞氏よりベートーヴェン青銅胸像一基および参考用楽器十数点の寄付。

四月 同声会主唱のもとに初代校長伊澤修二記念碑を出生地長野県上伊那郡高遠町大屋敷に建設する。

五月 職員定員改正。教授二十二人を二十四人に、助教授十五人を十六人に、書記六人を七人に増員される。

六月 上野児童音楽学園より雨天体操場木造平屋建十六坪五合および事務室四坪五合増築寄付される。

七月 集団勤労作業として全校生徒の邦楽ならびに洋楽レコード吹き込みおよび傷病軍人慰問演奏を行う。

九月 楽語調査促進のため楽語調査掛職員を新たに任命する。

〃 上野児童音楽学園より教室および練習室木造二階増築四十坪、渡り廊下九坪を寄付される。

〃 女生徒控え室二十坪を三十坪に模様替え拡張する。

〃 ヒットラーユージュント歓迎演奏会を開催。

十月 戦傷軍人慰安演奏会を開催。

十一月 海軍委託練習生は第二十七期以後四十名に増加する。

〃 軍歌《皇軍讃歌》《国境の守り》二曲を選定発表する。

十二月 銃後奉仕洋楽演奏会を開催。

〃 本校敷地内に寄宿舎木造二階建六十五坪、渡り廊下木造二階建七坪、同平屋建一坪の改築仮交付を受ける。

同十四年(一九三九)

- 一月 学友会第一回邦楽演奏会を開催。
- 〃 銃後奉仕邦楽演奏会を開催。
- 三月 邦楽科第一回卒業生を出す。
- 四月 邦楽科能楽専修に初めて女生徒の入学を許可しシテ方養成の途を拓く。
- 〃 邦楽科に能楽實生流を設け同科専修生の入学を許可する。
- 〃 仏語と伊語の講座を初めて開講。
- 五月 宮城前広場において本校代表および職員生と代表十二名の御親閲を受ける。
- 〃 青少年生徒に勅語を下賜される。
- 〃 学風風紀振作委員会を設置。
- 六月 青少年生徒に賜った勅語謄本下賜され勅語奉戴式を挙行。
- 〃 初めて全生徒の父兄を召集し懇話会を開催。
- 〃 本校主催全国音楽学校長会議を開催。
- 〃 習志野陸軍病院在院戦傷兵来校慰問演奏会を開催。
- 〃 初めて作曲および指揮法担任の専門外国人講師を招聘し外国人教師講師は計九人となる。
- 七月 文部省主催興亜勤労報国隊に本校職員代表一名および生徒代表五名参加し渡滿奉仕。
- 〃 初めて女生徒の合宿訓練を行う。
- 八月 皇軍慰問の歌を選定する。
- 九月 興亜奉公日設定記念式を挙行し奉公日行事を実施。
- 〃 体操科の一部として女生徒に薙刀術および律動運動を課す。
- 〃 女生徒の基準服を制定実施。
- 〃 本校敷地内に寄宿舎木造二階六十九坪の増築仮引継を受ける。
- 〃 上野児童音楽学園より寄宿舎木造二階建三十五坪の増築寄付を受ける。
- 〃 本校敷地内に教室木造二階建二十一坪の増築仮引継を受ける。
- 十月 文部省主催芸術学会公開講演会に参加出演。

- 十月 文部省主催芸術学会出席者を招待し演奏会を開催。
- 十一月 初めて四国地方演奏旅行を行う。
- 十一月 皇軍慰問の歌レコードを作成頒布する。
- 〃 創立六十周年記念式を挙行し各種記念事業を行う。ハイドン《天地創造》。朝香宮造子女王殿下白臨。
- 〃 創立六十周年記念事業費として卒業生より寄付。
- 〃 創立六十周年記念事業費として卒業生より寄付。
- 十二月 音声研究部細則を改正。
- 〃 紀元二千六百年記念東京市肇国奉公隊に参加し宮城外苑整備のため本校職員生徒勤労作業を行う。
- 〃 銃後奉仕洋楽演奏会を開催。
- 同十五年（一九四〇）
- 二月 東京音楽学校国民精神総動員実行委員会を設置。
- 三月 卒業式日を三月二十五日に変更する。
- 〃 入学試験期日を三月十日より三月十七日までに変更する。
- 四月 聖徳太子御忌法要を本校にて行う。
- 〃 初めて外国人声楽教師としてイタリア人を招聘（D・ノタルジャ・コモ 十九年三月まで）。
- 〃 上野児童音楽学園より教室として木造二階増築十坪の寄付を受ける。
- 五月 代々木練兵場にて青少年生徒に賜った第一回勅語奉読式に参加。
- 〃 規則改正により、本科甲種師範科予科研究科選科にそれぞれ改正。
- 七月 夏季集団勤労において女生徒に初めて合宿作業、参禅、園芸学校の作業などを課す。
- 〃 八ヶ岳修練農場における文部省主催高等専門学校生徒集団勤労作業講習会に本校生徒四名参加。
- 〃 文部省派遣興亜学生勤労報国隊に本校生徒三名参加。
- 九月 長唄舞踊科を選科に新設し同科生徒を募集。
- 〃 初めて失明傷痍軍人の委託教授を開始。

- 九月 初めて音楽教授法特別講義を施行。
 // 初めて各校委託教育実習を行う。
 // 北海道および東北地方に紀元二千六百年奉祝洋楽出張演奏。
 十一月 紀元二千六百年式典ならびに奉祝会に本校生徒参加。
 // 紀元二千六百年奉祝演奏会を開催。閑院宮春仁王ならびに同妃
 両殿下御台臨。
 // 教育勅語頒布五十周年式典を挙行。
 // 関西地方に紀元二千六百年奉祝洋楽出張演奏を行う。
 // 紀元二千六百年奉祝会主催紀元二千六百年奉祝洋楽曲発表演奏会
 に参加出演。
 十二月 文部省より寄宿舎炊事場および浴室その他改築木造平屋建三十
 坪五合の仮引継を受ける。
 // 紀元二千六百年奉祝記念音楽教育大会を京都にて開催。
 // 関西地方に紀元二千六百年奉祝邦楽出張演奏を行う。
 // 賀陽宮恒憲王殿下本校教練を御見学。
 // 統後奉仕洋楽演奏会を開催。
 同十六年(一九四一)
 一月 上野児童音楽学園より寄宿舎洗濯場物干し場木造平屋建十坪六合
 二勺五部および弥生寮増築平屋建一坪一合二勺五分の寄付。
 // 紀元二千六百年記念日本文化中央連盟制定交声曲《海道東征》全
 曲レコード吹き込み。
 二月 ヴェルディ《レクイエム》全曲を放送。
 // 統後奉仕邦楽演奏会を開催。
 // 本校学友会解散ならびに報国団結成式を挙行。
 三月 朝香若宮妃千賀子殿下ならびに朝香宮湛子女王殿下、卒業演奏に
 御台臨。
 // 「皇后陛下御誕辰奉祝歌」をレコード吹き込み。
 // 勅令により事務官の官制公布、技手は専任二人と改められる。
 四月 母校報国団結成記念演奏を行う。

- 六月 閑院若宮殿下李鍵公ならびに同妃殿下、定期演奏会に御台臨。
 八月 上野児童音楽学園より生徒控え室木造平屋建十七坪一棟の寄付。
 九月 本校報国隊結成式を挙行。
 // 北白川宮永久王殿下を偲び奉る会に出演、殿下の御遺作《伊勢神
 宮にて》を奉唱。
 // 本校職員生徒一同より防空壕構築の寄付。深さ十五尺面積約十四
 坪、壕内は栗、檜材にて組み立つ。
 十月 専門学校の修業年限臨時短縮令、二学年以上の男子生徒に対する
 臨時徴兵検査令達しを受ける。
 // 関西方面に洋楽出張演奏。
 // 久邇宮静子大妃殿下、関西出張演奏に御台臨。
 十一月 李鍵公殿下同妃殿下、統後奉仕洋楽演奏会に御台臨。
 十二月 賀陽宮恒憲王殿下、教練査閲官として御台臨。
 // 失明傷痍軍人の委託教授ピアノ調律一名増員。
 // 研究科臨時学則を定める。
 // 修業年限臨時短縮に伴い本科甲種師範科邦楽科の卒業式を挙
 行。
 同十七年(一九四二)
 一月 上野児童音楽学園より銃器室木造平屋建十坪一棟の寄付を受け
 る。
 二月 《大詔奉戴の歌》レコードに吹き込み。
 三月 文部省より寄宿舎(自習室、訓育室) 改築木造二階建四十三坪五
 合の仮引継。
 // 失明傷痍軍人の委託教授ヴァイオリン一名を設ける。
 // 甲種師範科の修業年限が「三箇年」から「三箇年及四箇年」と改
 められる。
 四月 軍神岩佐中佐遺宅弔問出張演奏を行う。
 五月 上野児童音楽学園より寄宿舎(自習室) 木造二階増築十坪五合の
 寄付。

- 〃 邦楽器を教材とする教則本などの作成委員選出。
- 六月 閑院宮若宮妃殿下ならびに李鍵公妃殿下、報国団邦楽演奏会に御台臨。
- 〃 関西方面に洋楽出張演奏。
- 〃 久邇宮静子大妃殿下ならびに同家彦王殿下、関西出張演奏会に御台臨。
- 八月 満州建国十周年慶祝のため満州国に出張演奏を行う。
- 九月 十八年度の入試における外国語の試験廃止令。
- 〃 修業年限六カ月短縮により卒業式。
- 同十八年（一九四三）
- 五月 邦楽科を本科に統合し、本科邦楽科となる。
- 九月 最高学年の繰上げ卒業。
- 十二月 男子生徒は学徒出陣、女生徒は軍事工場に動員。日比谷公会堂において戦時中最後の定期演奏会。フェルマー指揮によりベルリオーズ《幻想交響曲》他。
- 同十九年（一九四四）
- 二月 奏楽堂において戦時中最後の演奏会。フェルマー指揮によりバッハ《ドッペルコンチェルト》他。
- 三月 戦時非常の際に鑑み、日曜日も授業を行う旨文部省より通達。
- 十月 男子生徒陸軍軍楽隊に入隊。
- 同二十年（一九四五）
- 九月 十月にかけ個人面接試験により入学許可。
- 十月 校長乗杉嘉壽依願免本官、文部省学校教育局長兼東京帝国大学教授田中耕太郎校長事務取扱。
- 同二十一年（一九四六）
- 三月 東北帝国大学教授小宮豊隆校長就任。
- 四月 修業年限短縮を元に復帰。
- 九月 二十一年度入試、外国語試験復活。
- 十月 連合軍感謝音楽会（下谷区復興祭主催）、戦後初の演奏会。

- 十一月 音校・美校合同による第一回芸術祭。
- 同二十二年（一九四七）
- 七月 シューベルト生誕百五十年祭記念演奏会。
- 同二十三年（一九四八）
- 十月 創立および音楽教育創始七十周年（二年繰上げ）記念式典と同声会主催による記念演奏会。
- 同二十四年（一九四九）
- 三月 奏楽堂にて創立七十周年記念演奏会、天皇皇后両陛下行幸啓。
- 五月 東京芸術大学音楽学部と改称。作曲科、声楽科、器楽科、指揮科、楽理科を置く。
- 六月 校長小宮豊隆依願免本官、上野直昭東京音楽学校校長事務取扱。
- 七月 加藤成之音楽学部長就任（東京音楽学校校長を兼任）
- 〃 音楽学部第一回入学試験。
- 十月 上野直昭初代学長就任。
- 十二月 オークストラ定期演奏会を奏楽堂にて六年ぶりに再開（第一〇二回）。出演は「東京芸術大学東京音楽学校管絃楽団並びに合唱団」
- 同二十五年（一九五〇）
- 四月 東京芸術大学学則施行。邦楽科設置。
- 同二十六年（一九五一）
- 三月 音楽学部邦楽科教室建設。
- 四月 音楽学部別科および通信教育部設置。
- 五月 委託生制度の設置。
- 十月 同声会主催により「東京音楽学校にお別れする会」（洋楽・邦楽演奏会）
- 十二月 五十回連続演奏予定《メサイア》第一回公演。
- 同二十七年（一九五二）
- 三月 東京音楽学校最後（第六十三回）の卒業式。